

目の愛護デー

目の健康は、
眼科専門医が
守ります。

目について学んでみよう
知らない事がわかるかも…



平成30年 **10月21日** (日)

時間 12:30開場 13:00~15:00

会場 秋田市にぎわい交流館AU
2階展示ホール

入場無料

特別講演Ⅰ
13:00~13:50

座長 吉本眼科医院 院長 吉本 弘志 先生

演題 「まぶたの病気あれこれ~眼が開けづらい!それ、まぶたの病気かも?~」

演者 秋田県眼科医会 会長 内山 博之 先生

特別講演Ⅱ
13:50~14:40

座長 秋田大学 眼科教授 吉富 健志 先生

演題 「ドライアイを治して快適な日常生活を」

演者 東邦大学医療センター大森病院 眼科教授 堀 裕一 先生

主催：秋田県眼科医会／参天製薬株式会社

後援：秋田県、秋田市、一般社団法人秋田県医師会、一般社団法人秋田市医師会、秋田魁新報社、

朝日新聞秋田総局、読売新聞秋田支局、毎日新聞秋田支局、

A B S 秋田放送、A K T 秋田テレビ、A A B 秋田朝日放送、秋田県立視覚支援学校、秋田県視能訓練士会、秋田港ライオンズクラブ

目の愛護デー講座

目の健康は、
眼科専門医が守ります。

目について学んでみよう 知らない事がわかるかも…

特別講演Ⅰ 13:00~13:50

まぶたの病気あれこれ ～眼が開けづらい！それ、まぶたの病気かも？

まぶた（眼瞼）は眼の付属器として、眼球を守る大切な働きをします。また、まばたき（瞬目）を行い、眼球の表面を涙で潤す働きも重要です。普段は、何も意識しなくても、眼を開いたり閉じたりできます。正常にまばたきをすることにより、快適な視力を得るためにもまぶたは役立っているのです。

まぶたの病気には、年齢を問わず遭遇する可能性のある急性疾患として、腫れ、痒み、痛みなど起こす、麦粒腫、霰粒腫、眼瞼炎などがあります。慢性的な疾患として、眼が開けづらくなる症状の眼瞼下垂症、眼瞼痙攣、睫毛が眼に触る眼瞼内反症などがあります。

まぶたの慢性疾患である眼瞼下垂症や眼瞼痙攣は中高年の方の発症が多いのです。患者さん中には自分でこれらの病気に気づいていない場合もあるかもしれません。今回の講演では、日頃、聞く機会の少ないまぶたの病気についてお話しますが、中でも、眼が開けづらくなる眼瞼下垂症と眼瞼痙攣の症状、検査、治療法についてわかりやすくご紹介したいと思います。

特別講演Ⅱ 13:50~14:40

ドライアイを治して快適な日常生活を

なみだ（涙液）は、まぶた（眼瞼）にある涙腺から常に少しずつ目の表面に分泌されていますが、この大切な涙液の量が減ったり、すぐに乾いたりして目の表面で不安定になる状態がドライアイです。ドライアイは日本では1000万人程度いるといわれています。最近は、コンタクトレンズ装用者の増加やパソコンやスマートフォンの普及によりドライアイで困っている患者さんの数は急増しています。

ドライアイの症状は単に「目が乾く」だけではありません。実は、「目がごろごろする」、「目が疲れる」、「目をあけていられない」などといった訴えもドライアイの症状です。さらに最近の研究で、ドライアイは視力に影響を及ぼすことが明らかになってきました。目がなんだかおかしくて眼科に行ったら検査をうけてみたらドライアイが見つかったという患者さんはとても多いです。

ドライアイは、若い方から年配の方まで幅広い層に起こります。快適な目の状態を保ってより良い視力を得るために、早期にドライアイを見つけて正しい治療を受けることが大切です。今回の講演では、皆さんにとって身近なドライアイの病態や治療についてわかりやすく解説したいと考えます。



秋田県眼科医会 会長
内山博之 先生

1984年 独協医科大学 卒業
1984年 秋田大学医学部眼科 研修医
1992年 秋田大学医学部眼科 助手
1994年 秋田組合総合病院 眼科 科長
2000年 うちやま眼科医院 院長



東邦大学医療センター
大森病院眼科
堀 裕一 先生

1995年 大阪大学医学部卒業
大阪大学医学部眼科・研修医
1997年 国立大阪病院眼科レジデント
1999年 宝塚第一病院 眼科医長
2001年 米国ハーバード大
スケペンス眼研究所 研究員
2006年 大阪大学医学部眼科 助手
2009年 東邦大学医療センター佐倉病院眼科 講師
2011年 東邦大学医療センター佐倉病院眼科 准教授
2014年 東邦大学医療センター大森病院眼科 教授